

公助

政府や自治体などが対策や態勢、設備を整え、災害被害を減らす

共助

地域や近隣が緊密に協力し、助け合って災害被害を減らす

自助

家庭内で話し合って対策を講じ、家族への災害被害を減らす

その他の対策

- **テレビや背の低い家具も固定。**
テレビや背文の低い家具類も、跳び上がりして危険。耐震マットやストラップで固定します。
- **戸棚の扉には耐震ラッチ。**
大きな揺れでは、食器や本が棚から飛び出して危険があります。食器棚には滑り止めシートを敷いて扉に耐震ラッチを付け、本棚には飛び出し防止のベルトなどを付けましょう。
- **窓には飛散防止フィルム。**
振動で窓が割れた場合に備え、窓にはガラス飛散防止フィルムを貼っておきましょう。
- **寝室は飾らず、スリッパを。**
寝室には額をかけず、照明も固定式のものに。家具はできるだけ置かず、ベッド脇にはガラスが割れた際に備えてスリッパを。懐中電灯や携帯ラジオも枕元に。
- **スマートハウスで、減災!**
電気を創って管理し、蓄えられる「スマートハウス」も、減災には有効。万一の長期停電の際も最低限の電力が確保でき、ご家族の安心と安全を守ることができます。(詳細は、ファミエスまで)

「防災」とは、災害を「防ぐ」こと。しかし、大地震では「防ぐ」のはほぼムリ。そこで新たに考えられたのが「減災」。起こってしまいう災害被害を、極力「減らす」という考え方です。

「減災」という考え方。

この「減災」で大切になってくるのが、左上の3つの「助」。なかでも「自助」は、ご家族だけでなくにできる対策。まずは、家具類の固定から始めましょう。

「自助」で地震に備える。

ご家族の安全を守るために

防災を考える。



vol.3 地震に備える①

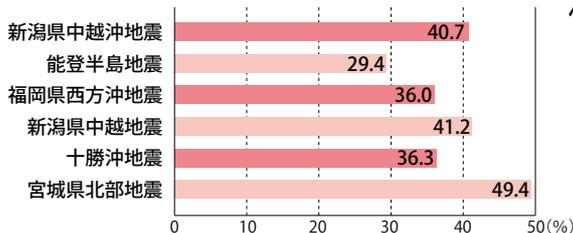
南海トラフや首都直下など、今後起こるだろう大地震はいくつも予想されています。その被害を少しでも減らすためには、「自助」による備えが大切になります。

家具を正しく固定する。

左グラフの通り、大地震の際には家具類が凶器になります。有効な対策は、固定すること。ただし、正しく固定（下記参照）しないと、危険は減りません。

近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合

出典：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」(平成24年7月)



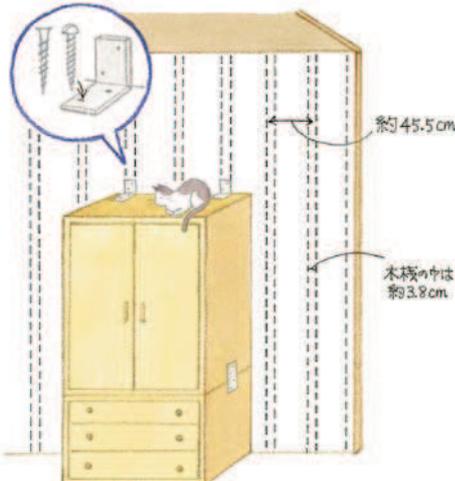
家具の固定方法

● 大きな家具類を固定。

家具を壁(木柱)に固定[ツーユーの場合]

厚さ3.2mm以上のL型金具

壁面の木柱位置

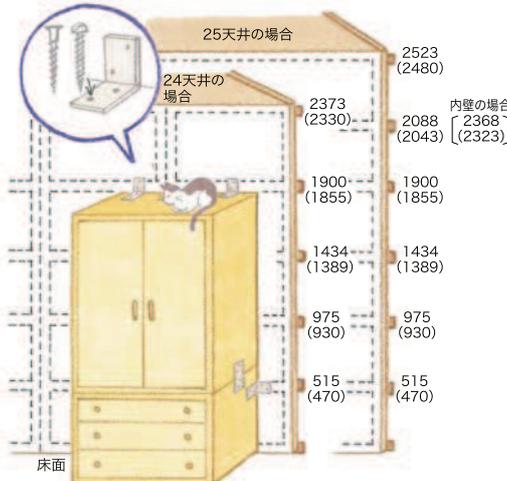


家具類をL字金具などで壁面に固定する場合は、ハイム、ツーユーいずれも上記イラストの木柱の位置(木柱の位置や固定方法の詳細は、お手元の「お手入れ読本」をご参照ください)を参考に「ワンブッシュ」(☑)で壁裏の木柱を確認。50~60ミリのタッピングネジなどで、家具と木柱をしっかりと固定してください。

家具を壁(木柱)に固定[ハイムの場合]

厚さ3.2mm以上のL型金具

壁面の木柱位置 単位(mm)



根太や木柱が簡単に探せる「ワンブッシュ」。(☑) ¥1,029



面で突っ張る固定器具の場合は、天井から家具上面までの長さを測り、適正なサイズの器具で固定してください。写真は「キューディフェンス」。(☑) ¥8,610~

天井と家具上部を突っ張って固定



突っ張り棒式固定器具の場合は、天井裏の根太(ねた)の位置(詳細は、お手元の「お手入れ読本」をご参照ください)を「ワンブッシュ」(☑)で確認し、突っ張り棒の位置を合わせて固定。

